天目山茶会のお知らせ

日時　令和５年　６月　４日（日）
　　午前９時～午後３時

御香料　1,000円

会場　栖雲寺境内に二席

石庭は足場が悪いため安全性の観点から御召し物は洋装をお勧めします。

坐禅の聖地®
で禅体験しませんか

右のような禅体験を事前にご予約いただき実施しております。ワークショップ・ヨガ・ハイキング・etc.　との組み合わせも可能ですのでどうぞご利用ください。
研修の詳しい内容はホームページをご覧ください。また、志納金は組み合わせ方により変わりますので直接お問い合わせ願います。

★毎月最終日曜日には定例坐禅会も行っておりますのでご参加ください。
午前7時～8時30分　　志納金300円

- 本堂坐禅
- 石庭での岩坐禅
- 写経・写仏
- 幻住茶礼（石庭で抹茶と菓子）
- 境内案内・歴史講話
- 食作法（寺の作法で精進料理）
- 掃除・板の間ぞうきん掛け
- 建長汁(けんちん汁)作り
- 蕎麦打ち体験　　など

＜発行者＞　臨済宗建長寺派 天目山 栖雲寺　住職 青柳真元
〒409-1201 山梨県甲州市大和町木賊122　TEL 0553-48-2797
ホームページhttp://www.tenmokusan.or.jp　または[栖雲寺]で検索

公式ホームページ　お寺の説明、行事案内など
住職日単(blog)　日常をありのままに、住職日誌
Instagram　天目山の写真　*Please follow*

栖雲寺たより
天　目
第４３号
発行日
令和５年５月１日

寺宝　信玄公愛用　兎の文鎮

昔からあるインターネットとアバター

毎年お盆になると檀家さんのお宅を棚経に廻りご先祖供養をさせていただいております。実はこの質問はこれまでに何人もの方からされたことがあるものです。

「お盆にはご先祖様が帰ってくると信じて飾りつけやお供えをし手を合わせていますが、ではそうなるとお盆以外の時に私は先祖のいない仏壇に手を合わせているのでしょうか？」

常に仏壇にいると答えればお盆に帰ってくるのは誰？となり、お盆以外は仏壇にいないと答えれば毎日手を合わせている位牌は何？となる。まるで禅問答のように難解です。
お釈迦様は霊魂は存在しないと断言されておりますから、原始仏教本来の教えでは先祖の霊は存在しないことになります。しかしインドの仏教が中国そして日本へと伝わってくる間に、先祖崇拝や霊魂の思想などが既成の宗教とも融合し、臨済宗だけでなく多くの宗派の様々な教えも伝えらえれたので日本風の大乗仏教として今に発展しました。よって矛盾とは言えないまでも、説明が難しい行事やしきたりはお盆以外のことでもたくさんあります。尋ねる和尚によっておそらく返ってくる答えは違うのでしょうが、私はいるいないではなくこう考えこのようにお答えしております。

「仏壇は小さなお寺。忙しくてお寺に行けなくても毎日本尊様とご先祖様に手を合わせられるようにと自分の家に置いた菩提寺です。中央の仏像や位牌は自分の心を映し出す鏡で、そこに映った先祖を敬う自分の心に手を合わせ、先祖の恩に感謝しているのだと思います。お盆になり一年に一度は会いたいと願えば、その人の心に帰ってくるのだと信じています。」
「仏壇は昔からあるインターネット。菩提寺や極楽浄土と繋がっています。時間空間を超えいつでも繋がっていてすぐ見ることや手を合わすことはできるけれど実態は見えない。それでも気持ちは込めるしご先祖様と会話もできるのが仏壇じゃないかな。」

そして仏像はアバター。avatar は日本語で「化身、権化」。神仏に当てはめると大権現です。例えば香川県の金毘羅山大権現は不動明王のアバターであり、また日光や静岡久能山が有名で全国に100社以上ある徳川家康を祀る東照大権現とは東を照らす、つまり東方浄瑠璃浄土にいらっしゃる薬師如来のアバター。そして栖雲寺の鎮守摩利支天は陽炎（かげろう）のアバターです。上杉謙信のように自分のことを毘沙門天のアバターだと位置づけた武将もいました。ちなみに大ヒットした映画アバターに登場する生物が青色なのは、ジェームズキャメロン監督がヒンドゥー教の神の化身が青色なのを参考にしたからなのだそうです。

最近ではメタバース（仮想空間）やＶＲ（仮想現実）で阿弥陀如来がいる西方極楽浄土や東方浄瑠璃浄土を表現する活動家も見られますし、コロナ禍で外出が難しい時にはオンライン参拝やオンライン坐禅会を取り入れているお寺も見受けられました。
こうやって見えない命や、非現実の命を大切にするという心は今も昔も同じで、その見えない命を現実世界に求め形にして心の拠り所とする。アナログかデジタルかの違いはあれども人々の知恵はすばらしく信仰とは本当に力強いものです。アバターの神様であっても仮想空間であっても、人と神仏そして人と人、心だけはしっかりと現実で繋ぎとめ、助け合い支え合いお互いを尊敬し合って生きていきたい。

【令和5年　1月　～　4月の報告】

1月19日　English　英語対応のホームページを公開

鎌倉で知り合ったMeta（旧Facebook）に勤務するアメリカ人の知人に製作を依頼しておりました英語対応のホームページですが、詳細ページを除きメインの部分はほぼ完成しましたので1月19日に公開いたしました。栖雲寺ホームページからもご覧いただけます。また、お寺の入口には英語の説明看板も設置。まだまだ少ないですがホームページを見た外国の方が実際に栖雲寺まで来てくれており、十字架捧持マニ像にはとても興味を示している印象です。外国人のお知り合いがいる方、旅行会社の方、栖雲寺をお勧めいただけたら幸甚です。

1月25日　ＮＨＫ甲府放送局『かいドキ』で紹介される

夕方のニュース番組かいドキの「いいじゃん！あなたの町」で甲州市が特集され、アナウンサーが栖雲寺岩坐禅を体験されました。栖雲寺の研修、禅寺体験はおかげさまで申し込みが年々増加しております。お問合せ、お申し込みはどうぞお早めにお願いします。

1月28日　インターネット環境を整備　Wi-Fiルーターを設置

天目山では現在auと楽天モバイルは圏外でご利用いただけません。ご参拝の方の利便性とインバウンド対応の一環として境内のネット環境を整えました。Wi-Fiルーターを3台設置しましたので、本堂や庫裏といった建物を中心に境内の広範囲でインターネットを無料でご利用いただけます。ご来山の際にはどうぞご活用ください。

コスプレ『天空石庭の撮影会』は好評につき即満員

昨年11月に紅葉の石庭で開催したコスプレの撮影会は好評をいただき、参加者からは新緑の石庭で撮影を希望する声を多く頂戴しました。そこで運営会社と相談し、開催日を5月20日に設定して2月22日に募集を開始したところ、1日を待たず即定員に達しました。

満員となりこれからのお申込みはできませんが、撮影の様子をご覧いただくことはできます。またコスプレイヤーさんに声を掛けて同意があれば撮影もできますので、5月20日は是非天目山へお出かけください。とても楽しいですよ。

試し撮りの写真です

今年のしだれ桜

今年は各地の桜が早く、甲府盆地の桃の花もかなり早かった印象です。栖雲寺の桜も4月に入ると次々咲き始め、4月8日お釈迦様の誕生日（降誕会）の頃には満開となり、しばらく花見を楽しませてくれました。

2月25日　甲斐武田氏発祥の地を訪ねる

武田信玄は甲斐源氏の19代目ですが、栖雲寺は歴史が古くて境内に墓地がある武田信満は甲斐源氏13代。そしてその初代は源義光（新羅三郎）で常陸の国（現在の茨城県）を本拠地としていました。義光は長男である源義業に佐竹郷を、三男の源義清には武田郷を与えるとそれぞれの地名を取って義業は佐竹の源氏、義清は武田の源氏と区別され、そこから武田義清と武田を冠したのが武田氏のはじまりです。円満に暮らしていましたが、父の義光が亡くなると義清は武田郷の境界を巡って佐竹と紛争を起こします。その争いに敗れたことで甲斐の国八代郡（現在の市川三郷町）へ配流となり、そのまま甲斐に土着したのが武田義清と子の清光です。大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」前半に八嶋智人さんが演じていた甲斐源氏の棟梁武田信義は清光の子ですから、源頼朝とも親戚になります。つまり甲斐武田の発祥地は常陸の国なのです。もちろんご存知だった方もいるでしょうが、山梨県民の大半はその歴史を知らず、私自身も発祥地は茨城であると知っている程度でした。

武田氏にも詳しい建長寺歴史調査員の鈴木さんにコーディネートをしてもらい、武田氏発祥の地を訪ねてきました。

「発祥地」の碑が建ち、武田館は古い資料を基に復元され、観光地として整備されています。武田川が流れ、城跡が残り、開発されていない山間部や田畑は900年前の武田郷を思い起こさせる空間でした。甲斐武田氏の栄枯盛衰を想い、勝頼公の壮絶な最期に思いを致し、武田氏滅亡の地天目山に戻るとまず信満公の墓前に手を合わせ報告をしました。皆様も機会がありましたら一度発祥の地を訪ねてみてください。

2月26日　徒弟が10日間の制間暫暇

臨済宗の専門道場は一年の生活が大きく二期に分けられており、その半期ごとの前半に制間暫暇（せいかんざんか）という文字通り暫くのお暇をいただけます。京都の道場でお世話になっている栖雲寺徒弟の弘敬禅士ですが、2月26日から10日間の暫暇を頂戴し栖雲寺に戻ってまいりました。26日朝に京都を発ち、その日のうちに電車を乗り継ぎ甲斐大和駅へ。そこから歩いてお寺に戻りました。久しぶりに顔を見ましたが、険しさと辛そうな表情の中にも一年間勤めた自信と晴れ晴れしさが見えました。

石和のお風呂に連れていき開浴し一緒に薬石（夕食）をとりながら道場でのたくさんの出来事を聞かせてもらいました。一年分ですから、一度の食事ではとても話しきれませんが、弟子と語り合う有意義な時間でした。27日からは家族のもとに帰し、3月7日に再び京都の道場へと戻っていきました。気にかけて応援してくださっている皆様いつもありがとうございます。なんとか2年目に入りました。

4月16日　摩利支天大祭

檀信徒の前で、来年はきっと盛大にと毎年挨拶をして４回目の摩利支天大祭ですが、総代長と相談した結果今年までは祝宴を控えての開催とさせていただきました。

4月30日　蕎麦の種蒔き

昨年は3月末に種蒔きをしましたが、まだ寒くて早すぎた感じでしたので今年は1か月遅らせてみました。早朝に行っている定例坐禅会の参加者が掘り起こしや種蒔きを手伝ってくださりとても助かりました。6月頃には花を咲かせてくれると思います。